

平成 23 年 4 月 15 日

## 4 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は、順調な生産が続いており、震災後の燃料不足の影響はほぼ回避できたが、計画停電により、選別機の稼働時間が限定され、はい積みに影響。杭丸太の需給が逼迫。スギは柱材の引合い強いが、中目材は模様眺めの状況。ヒノキは、柱材の引合い弱く、中目材は高齢級が好調。スギの価格動向は、柱材が反転し強含み、中目材は弱保合のまま推移。ヒノキは、柱材が値を下げたが、中目材は保合。燃料不足と計画停電による工場の操業短縮が重なり、落札材の引き取りが悪化。また、KD材生産にも支障。群馬は、スギは原木入荷に問題ないが、カラマツは品薄。原木、製品とも在庫は若干少い。製材工場の操業は特に問題ないが、製品販売に先行き懸念。製品価格は現状震災前に対応。羽柄材の供給が東北から、県内に変化。合板代替で野地板需要が急増。住宅部材の不足が多岐に亘っており、新規着工延期が懸念される。

### 2. 米材

2月の米国新設住宅着工戸数は、前月比22.5%減の年率47.9万戸となった。米国丸太は前月同様中国の引き合い強く、価格は強含み。また、カナダ丸太も同様で、価格は強含みの展開。3月の産地港頭在庫は約6,540万スクリブナー(約31万m<sup>3</sup>)。また、ウェアハウザー社の4月積み米マツISソートは強含み。米材丸太の入・出荷・在庫ともに横這いで推移。大型港湾製材工場の3月の荷動きは、前月より多少減った模様。内陸部製材工場の荷動きは引き続き低調。一方、製材品は3月のTLTの入荷が増加。出荷も通常より増加傾向。在庫は横這いから先々減少傾向。産地情勢は全般的に引合いが増している。米マツ製品は昨年の対日伸び率50%増を受け、現在も日本からの引合い強い。産地価格は、震災後の便乗値上げに注視しつつも、船運賃、コンテナ価格上昇懸念から強含み傾向。震災により小名浜、鹿島への積荷がTLTへ緊急に回送。米国住宅着工の低迷が続く中で、米加シッパーはターゲットを中、日、韓などアジアへ輸出拡大を目指す。

### 3. 南洋材

サバの天候は回復せず出材にかなり影響。原木相場は、伐採規制、原油高、現地通貨高、消費国からの引合い旺盛等により強気一辺倒。ローカル合板工場、輸出業者に比べ競争力のない製材工場に原木が回らず、受注を受けられない状況。サラワクは相変わらず天候不順が続く出材は激減。旧正前から現地大手合板工場が原木を高値で買い始めていたのに加え、震災後日本のバイヤーが仮需を見込み大量発注もあり、更なる原木相場のアップとなっている。PNG・ソロモン材は、中国、インド等からの引合い旺盛で、相場は一段と強含み。丸太の入荷はやや減少、出荷は横這いで在庫はやや減少。製材品の入荷はやや減少。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品は、相変わらず入荷が悪く、客の要望に応えられない製品が増加。

### 4. 北洋材

ロシア極東の出材は順調だが、依然効率の悪い日本向け出材は限定的で、エゾマツ、カラマツともわずかな需要より供給が下回っている。価格は中国の旺盛な買いにより続伸中だが、エゾマツは過剰在庫との情報もあり頭打ちの状況。アムール材出材開始の6月までは大きく下がる可能性はない。シベリア地方の出材も順調。価格は中国辺境部の引合いが強く、これに貨車不足が加わり、アカマツは2月以降値上げ傾向。例年3~5月は冬切りオーダーの最盛期となることから、暫くは強含む。富山港・富山新港の3月丸太入荷は、22,800 m<sup>3</sup>(アカマツ6,755 m<sup>3</sup>、エゾマツ11,934 m<sup>3</sup>、カラマツ4,191 m<sup>3</sup>)と先月比22%増。一方、製品は13,219 m<sup>3</sup>で先月比9%減。荷動きは、丸太は順調だが、製材品は輸入製品、国内挽きともに震災関係で荷動き鈍い。在庫は1.5ヶ月。価格は丸太、製材品とも強含み。国内製材工場は、原料値上げで採算取れず引き続き厳しい状況。

### 5. 合板

合板用丸太価格は、国産材・外材ともに続伸中。また、船運賃の上昇が顕著でコスト高に拍車、特に、南洋材合板メーカーは価格転嫁を急速に進めている状況。各メーカーともに引き続き原木の手当に苦戦。2月の国内の合板生産量は、約15.6万m<sup>3</sup>で、うち針葉樹合板は13.1万m<sup>3</sup>(対前年同月比77%)で前月に比べ一段と減少。出荷量は13.5万m<sup>3</sup>(同81%)となったため、在庫は9.3万m<sup>3</sup>まで減少した。この数値は、被災した岩手、宮城の合板メーカー分を含んでいないので、通常月の生産、出荷量の約3割減となっており、両県の供給能力の大きさを裏付けている。販売価格は、国産南洋材合板は輸入合板の影響により暴騰している。針葉樹合板は、被害の無かったメーカーから販売方針と新価格が表明されたが、被災したメーカーを補える量の供給は望めず、市場では懸念を払拭

できない状況。国産合板は被災したメーカーの影響が非常に大きく、市場は混乱に陥っている中、引合いや問合せが殺到しており、手当が窮屈な状態。特に、針葉樹合板は先行き不透明で品不足が危惧され、代替品を探す動きが活発。輸入合板は震災後暴騰し、相場が掴み難い中、市場では玉を集める動きが激しく収拾がつかない状況で、手当は難航している。先行き国産、輸入合板ともに川上の在庫が低水準なため、暫くは市場での積極的な手当が続く。被災したメーカーの復旧のめどは立っておらず、針葉樹合板の不足感は当分の間続くとの見方大。全体的に出荷は好調で、被災地向けが最優先されている。針葉樹合板を筆頭に限定的な手当しかできないことから、流通在庫は極めて低水準な状況。

## 6. 構造用集成材

欧州ラミナは順調に入荷しているが、震災の影響で東北地方への入港が他港に向けられたため、一部で入港遅れが発生。ラミナは4月から次のクォーターの契約がスタートするが、現地ではすでに原木を購入し、生産体制に入っている工場と、中近東の混乱を踏まえ減産している工場があり、国内集成材メーカーの在庫消化状況次第で価格動向が決まる。輸入集成材は、4月積みはすでに58,000円/m<sup>3</sup>程度で決まっているが、国産が強含みのため、次回クォーターは強含みの交渉が予想。国産集成材の受注状況は、3月は若干の減で、4月は中旬までは荷動き悪いと予測。合板、断熱材等の欠品により、上棟計画が立てられないプレカット工場、工務店が多い。震災関連で全般に停滞しているが、反動が懸念される。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、合板品不足によりスギの野地、床板用の3分、4分板需要が急増も入荷少なく対応困難。外材は復興用として米ツガ小角類の需要が急増。造作材は、スギ、ヒノキともに化粧用板類に小動き。外材では、引き続きスプルー、ピーラーの良材は動き良い。入荷減が著しく、林場は空が目立っており、入荷しても売れ筋はすぐ無くなってしまい対応に苦慮している。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割強保合。スギ4分板が震災関係で突飛高。外材は、米ツガKD平割、正角KD、欧州材間柱ともに変わらず。ロシアアカマツ垂木製品強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。合板は地震の影響で全て流通がストップし、針葉樹合板は入荷なし。床板は値上げ基調。プレカット工場の動向は、地震、計画停電で生産が大きく減少し、現状30%~40%の生産量。工務店は、震災後屋根工事の依頼が多かったが、合板の手当ができず応急

処置に終わっており、本格的な工事には時間がかかると予測。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)